

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300593		
法人名	特定非営利活動法人ファインケア		
事業所名	いづみのグループホーム		
所在地	静岡県富士市今泉1丁目1番21号		
自己評価作成日	令和1年5月24日	評価結果市町村受理日	令和元年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2292300593-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2292300593-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様に楽しんでいただけるよう、年間行事内容を充実させています。職員一人一人が企画した行事や、ボランティアの方をお招きして、御利用者様に楽しんでいただいています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年間行事は毎月に担当職員を決めていて、例えば4月は押し花教室、5月は餃子パーティー、6月はミニ運動会お楽しみ企画があります。利用者の笑顔が膨らむことで職員のモチベーションも上がり、また「コレ、どうしたらいいですか」といった創意工夫を管理者と協議する場面も増え、事業所全体の活性化につながっています。ボランティアの訪問は定期ではありませんが昨年と同じ団体に本年も依頼したり、同法人が利用しているところをお願いできないかと話を進めていて、また中庭で日光浴しつつ茶話会をしたり、食器拭きやモップがけの生活リハビリを重ね、総じて利用者の歓びに着目した活動ができています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年1回の社員総会、ホーム会議で法人運営理念を共有し、実践しています。	「安全に安心して利用者が暮らせるように～」との願いを以て、「職員のチームワークが良いことが事業所の秀でている点である」と自負するだけあって、利用者も職員も穏やかに過ごしている様子を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や、近くの商店へ買い物に出掛けたり、地域のお祭りに参加し、交流をはかっています。	吉原の祇園祭にはご祝儀も届け、また神輿が駐車場に入って、利用者も大盛り上がりでした。また近くの肉屋でコロッケを買って昔懐かしい味を愉しむ等、地域へ買い物や散歩に出る機会を増やす努力をしています。	街の中心地にある立地を生かし、子どもたちや親子連れとのふれあい企画が前進することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、御家族様、来客者様に認知症について理解を深めていただけるよう、地域との交流の場をこれからも増やしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、回覧板に掲載されている防災訓練、お祭りなどの行事計画の案内をいただいています。	スタートして3年目の事業所ですが、隔月開催が滞りなくできていて、議事録も漏れなく作成されています。運営推進会議を通して地域行事も把握でき、お祭りには子どもたちも敷地の中に入れてもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所介護保険課、地域包括支援センターの担当者をお招きし、情報や助言をいただいています。	地域包括支援センター職員は運営推進会議に毎回足を運んでくださり、「外部研修への参加で研鑽を～」 「運営推進会議のメンバー増幅を～」と多岐に渡っての具体的な助言があることを議事録で確認できます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の生活の自由を尊重し、身体拘束の弊害を認識し、各職種から成るチームケアを行うことで、身体拘束をしない取組を行っています。	昨年度の法改正では指針を作成し、研修会も年2回実施しており、委員会開催とともに職員間で本件について話し合う機会も設けています。職員はもともとの意向で接している感が否めず、セオリーやハウツーによる標準化が課題のように映ります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議にて、高齢者虐待防止について学ぶ研修を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で制度について定期的に学び、理解して、これからの支援につなげて行けるよう、知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者様、御家族様の立場に立ち、説明を行い、不安、疑問点を極力なくす努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様、御家族様の意見、要望をホーム会議、運営推進会議で話し合いの場を設け、改善に努めています。	家族の面会は少なくとも月1回程はあり、街中にあるため「駐車場借りてもいいですか」と気軽に依頼が入ることもある間柄に成っています。利用者には日々要望を聴いていて、「餃子パーティー」等が実現しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議で、職員一人一人の意見を聞き、管理者、ケアマネージャーが現場の声を汲み取っています。	フロア会議で情報共有があり、職員の仲が良く協力し合って物事を進めているのはフロアでの言動から見てとれます。また月間企画を通じて周囲の意見を集めたり、同僚にアドバイスする姿もごく普通の光景と成っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議で、各施設の職員の実績、努力を考慮し、やりがいを保てるよう、意欲を引きだせるよう、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より良い介護を行うため、研修に参加していたたき、現場では、研修で学んだことを実践して、日々の介護の向上につなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会を通じ交流の場を作ると共に外部研修等で同業者の方々と情報を交換を行い質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に御本人様から困ってる事、不安な事をお聞きし、安心していただき、信頼関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に御家族様の御要望を聞き、いつでも相談していただけるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが相談受付のケアアセスメントを作成する際、課題の項目を設け、今必要とされる支援を見極め課題を作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の出来ることを大切にし、職員と利用者が生活を共にすることで、支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる御家族様と御本人様のコミュニケーション、御家族様と職員のコミュニケーションの中で、日々の御本人様の様子を知って戴けるよう、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の御家族様、友人様、御近所様、御兄弟様がいつでも面会出来る雰囲気作りを努めています。	在宅の頃のご近所や友人も訪れていて、個室で再会を喜び合う日もあります。また以前の施設からの継続で折り紙や塗り絵をおこなう人が多くいて、ADLが低くなってできない部分を手伝うなど支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日行われるレクリエーションや定期的に行われる行事に皆様が参加していただけるよう、日頃から利用者様どうしが仲良く生活できるように、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、気軽に訪問、相談していただけるよう、協力出来る事は支援出来る様、体制を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活の中で行ってきた事、得意なことを引き出し、暮らしの中に取り入れていく努力をしています。	例えば新聞紙でゴミ箱をつくることを得意とする利用者は、そのスピーディーさとクオリティの高さに定評があり、一人ひとりの個性や状態に合わせて関わることで想いを引き出しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らしや生活環境を職員間で共有し知り得た情報から、それぞれの方に合ったケアを行う様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、朝の申し送り等職員の間の状況、情報交換を行い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様、御家族様、主治医からの意見を聞き、それに対して、職員がホーム会議で話し合い、介護計画作成に反映されています。	フロア会議で介護職から介護支援専門員に個々の利用者の現状を伝えて介護計画書を現実に近いものとし、「生活記録」には2表を挟み込んで介護計画書が現場に反映されるよう仕組みが作られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化、気づきを申し送りノート、生活記録に記入し、報告、連絡、相談を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、急な受診が必要になった時などスタッフが対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り、散歩の外出で地域の方との繋がりをもち、本人様が安全で楽しく暮らせる支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持つことにより、24時間、365日を安心して、医療を受けられることを説明し、御本人様、御家族様に受け入れていただいています	在宅の頃からのかかりつけ医から9名全員が協力医に変更しています。診療には当日の日勤者が立ち会うようにしており、「往診記録」に残っていて、急ぎのことは家族に電話連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の変化がある方は管理者から、看護師に伝えている。変化を見逃さないように心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報を提供し、退院時、状態説明に同席し、サマリー等必要な書類をお願いしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは提携の医師と協力し看取りを行える体制を整えている。御本人、ご家族と話し合い不安がなくなるように対応しています。	契約時には死に係ることを言い出しにくく、看取りについて家族に方針説明ができていません。またこれまでも実績がなく、ミキサー食となる等重度化へ足を踏み入れた段階を目安にするか等、どのように合意形成してゆくかも不明瞭です。	法人内に他にも事業所はあるため形式としては整っていますが、今後は想定した準備ができるよう、他事業所で実施する際に体験学習に出向くことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を一年に一度行い緊急時には、自宅待機をしている宿直者が対応し指示を出す連絡体制が整っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震災害に備え、訓練を行っています。避難経路をいつでも確認出来る様、施設内にハザードマップを掲示しています。	年2回の法定訓練は夜間訓練や水害をメニューに位置付けています。昨年11月の訓練は「社会福祉施設防災の日」に実施し、事前告知のないものとして趣向を凝らしていて、避難時間の計測もおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様の権利を守る為、生活を守る為、職員一人一人が、言葉使い、行動に対して配慮しています。	「トイレいい?」「わかんないよお」「わからないなら行ってみますか」とのやりとり後、職員が後ろに出した手を我が手のように利用者がそっと掴み、歩を進める姿には慈愛が滲んでいて、安心感が湧きます。	もともとの性向で尊重が叶っている職員、難しい職員といるようですので、事業所として「こうするのがマナー、エチケット」と具体的に指導ができていくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意思を尊重し、声にならない声を理解できるよう日々のつながりを意識してスタッフが代弁をすることで、より良いケアを目指しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく、どういふことをしたいのか、どんな事に興味があるのかを引き出し、その日1日が、楽しく暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、整髪しています。その人らしい、装いを心掛け、その日の服を御自身で選んでいただいたり、職員が助言しながら選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が同じメニューを同じテーブルで召し上がります。、行事企画でいつもの献立以外の献立を提供して、御利用者様に楽しんでいただいています。	献立と調理法を併せ毎日食材業者から届き、ある程度決まりきったメニューですが、利用者の声に耳を傾けてのアレンジ日もあります。「お寿司がいい」との意見が多く、ちらし寿司が数多く提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分量、食事以外の水分量を合計、記録し、一人一人の食事量、水分量を把握し、栄養状態を確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯のケアを行っています。夕食後、義歯洗浄を行い、定期的に歯ブラシを交換し、口腔内を清潔に保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入することにより、日中、夜間の排泄パターンを知ることが出来、自立が持続できるように、支援を行っています。	排泄チェック表をつけて声掛けしてはいますが特段向上例はなく、維持が続いています。便秘には牛乳、ヨーグルト、寒天ゼリー、さつま芋など、できるだけ食べ物で改善を促して、薬は最期的手段としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、水分量を増やす、下剤服用の加減、便通の良い食物を提供し、便秘を予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方、嫌いな方がいます。安心して入浴していただけるよう、入浴が嫌いにならないよう、その人その人の生活リズムに合わせて声掛けを行っています。	温熱ヒーターや機械浴、手すりなど、必要な設備が整う浴室です。増やしたい希望にはできる限り応えていますが、大抵は週3日です。変わり湯はないものの浴剤は日常的に用いて、湯も一人毎に入れ替えています。	浴剤は何種類か用意して、利用者を選択する機会を設けると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを崩さず、夜間、質の良い睡眠を摂れるよう、御本人様の状態に合わせた休息の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情を確認し、病状と用量についても誤認防止のために、二人の職員でダブルチェックし服薬を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人のニーズを引き出し、それぞれにあった楽しみが持てるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、地域の行事に参加し、御利用者様と地域のつながりを持てる様、外出の機会を増やしています。	外に出かけることで利用者の表情が向上することを職員が自覚するようになり、近くの100円均一やパン屋での買い物レク、季節を感じるミニ散策の機会が増えています。また家族も外食に連れだしてくれそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は保安上の問題もあり、原則施設にて管理させて頂いています。御家族様、職員との外出時等には、お返しし、買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに住んでいて、普段会えない御家族様からの電話、手紙、FAXにて手紙があると、手紙を読んだり、喜んで電話に出て、お話をされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、フロア、共有スペース、台所に物を置かない。明るく、清潔感を保つことに気を配り、温度・湿度の管理と快適な生活を送れる様、心がけています。	中庭の植物は時々業者の入れ替えがおこなわれ、目の保養となる鉢が並び、落ちた葉を根気よく拾う利用者の姿も見られます。換気は朝・夕実施しており、生活リハビリの一環で利用者と一緒にモップがけを日々重ねています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、御利用者様どうしが共通の趣味や和やかな雰囲気でお話し出来る様、席の配置に気を配っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、以前から使用していた生活用品を持って来ていただいています。使い慣れたものを使用することで、居心地よい場所であるよう、くつろいでいただいています。	介護用ベッド、転倒防止付クローゼット、洗面台のほか、各居室色を変えてあるカーテンが配されていて、持ち込みはプラスチックケースや小物程度です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全点検を行い、入居者様が安心して生活が送れるようにしています。		